

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 953 号	氏名	後 藤 響
学位審査委員	主 査	佐 藤 克 也	
	副 査	川 上 純	
	副 査	東 登 志 夫	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>関節の不動により皮膚の柔軟性・伸張性が低下し、皮膚性拘縮が起こる。現在までこの皮膚性拘縮のメカニズムについては不明である。本研究では皮膚性拘縮のメカニズムを明らかにしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>不動を呈したラットモデルで皮膚性拘縮のメカニズムについて病理学的・分子生物学的手法にて解析した。種々の標本選択バイアスを可能な限り除外するようにデザインし、更に種々の統計学的解析法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、病理学的・分子生物学的な手法にて解析し、不動1週後で type I・III collagen の過剰増生にて皮膚の繊維化が生じ、同時期に TGF-β1 の発現により線維芽細胞が活性化され、コラーゲン産生が亢進する。不動2週後、低酸素状態の惹起と線維芽細胞から筋線維芽細胞への分化誘導が促進し、コラーゲン産生がさらに亢進する。その結果より、線維化が促進される。この研究にて不動による皮膚性拘縮の機序を明らかになり、今後のリハビリテーション研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は不動による皮膚性拘縮の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			